

3. 葛西地域（北部）

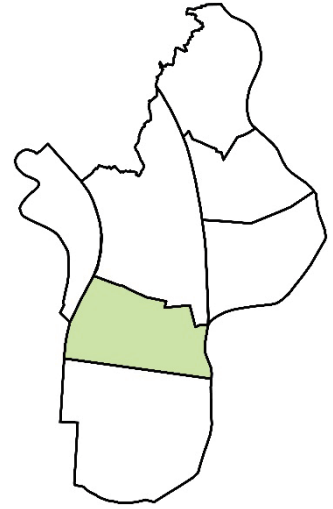
(1) 地域の概況

① 地域の成り立ち

葛西地域（北部）は、区の中央に位置し、江東区、浦安市、市川市と隣接した、荒川・中川と旧江戸川に囲まれた葛西橋通り以北、新大橋通り以南の地域です。

昭和30年代までの人々の生活は農業と漁業が中心であり、水田と蓮田が広がる田園地帯でした。昭和40年代からは、東西線の開通や都営新宿線の船堀駅開業、全国初の親水公園となる古川親水公園の整備などにより、交通利便性や住環境が向上し、まちが発展していきました。平成に入ると、新川では江戸情緒ある河川空間づくりなどが始まり、地域独自の景観形成が行われてきました。また、荒川・中川と旧江戸川の川沿いや、多世代が楽しめる宇喜田公園・行船公園など、多種多様なみどりのオープンスペースがみられます。

今後は、船堀駅周辺への庁舎建設に伴い、みどりあふれる新たな賑わいの創出に向けたまちづくりを進めていきます。

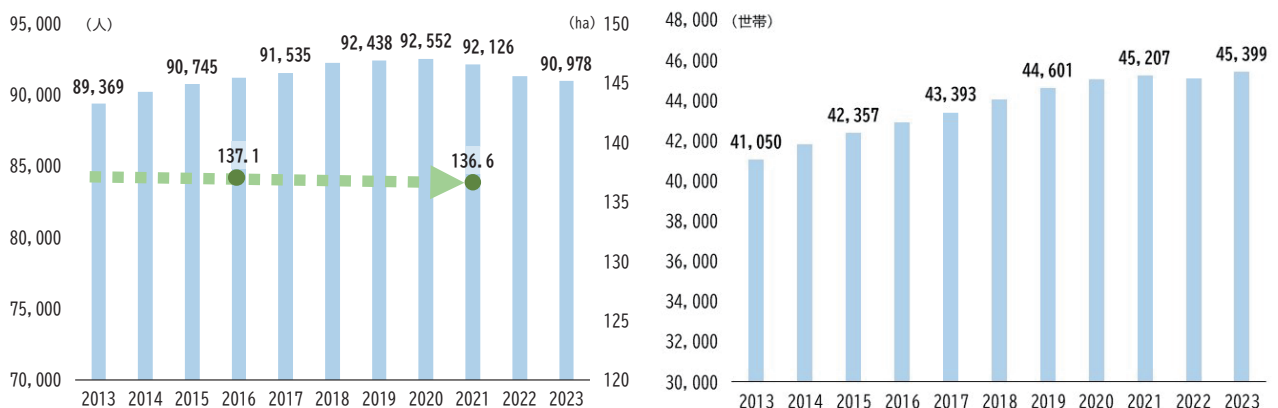


② 人口・世帯

人口は、令和2（2020）年までは毎年増加していましたが、その後減少に転じ、令和5（2023）年には90,978人となっています。ピークの92,552人から約1,500人減少しています。

世帯数は、令和4（2022）年はやや減少に転じましたが、全体的には増加傾向にあり、令和5（2023）年には45,399世帯となっています。

みどりの面積は、平成28（2016）年に137.1ha、令和3（2021）年に136.6haとやや減少しています。

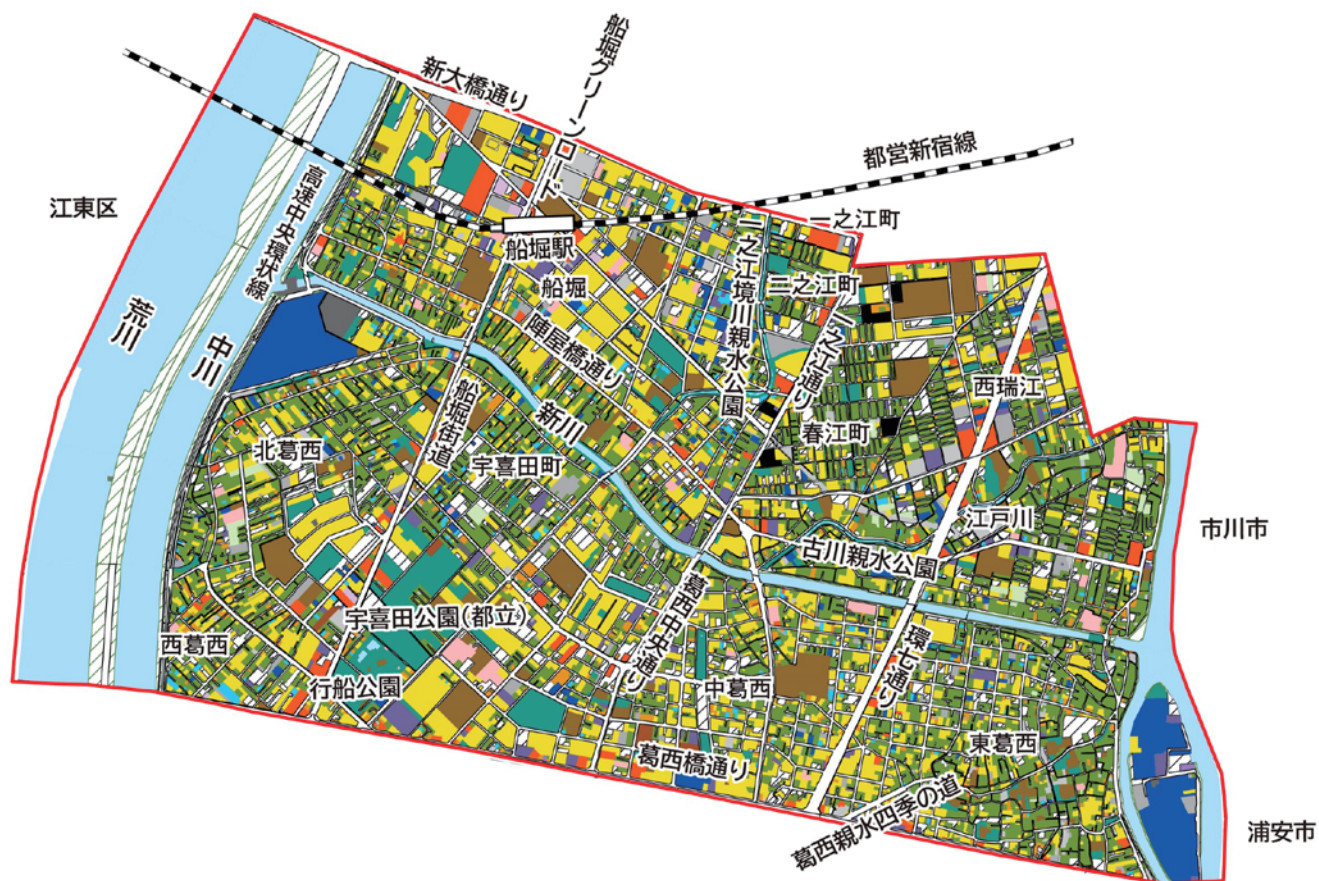


葛西地域（北部）の人口推移と
みどりの面積（ha）

葛西地域（北部）の世帯数推移

③ 土地利用

- 地域全体として、独立住宅と集合住宅が共存する土地利用となっており、一部エリアに大規模な工場や住居併用工場が共存する土地利用もみられます。
- 船堀駅周辺は、商業、集合住宅が混在する土地利用となっています。
- 北葛西一丁目や妙見島では、大規模な工場などが立地し、産業的土地利用が中心となっています。



凡例					
	官公庁施設		スポーツ・興行施設		公園・運動場等
	教育文化施設		独立住宅		未利用地等
	厚生医療施設		集合住宅		道路
	供給処理施設		専用工場		畑
	事務所建築物		住居併用工場		樹園地
	専用商業施設		倉庫運輸関係施設		水面・河川・道路
	住商併用建物		農林漁業施設		原野・森林
	宿泊・遊興施設		屋外利用地・仮設建物		その他

土地利用（葛西地域（北部））
（令和3（2021）年度区部土地利用現況調査）

④ みどりの現状

- 宇喜田公園をはじめとして、大規模～小規模な公園・運動場などが点在しています。
- 荒川・中川、旧江戸川や新川の川沿いや、親水公園（古川親水公園、一之江境川親水公園）、宇喜田公園や行船公園など多世代が楽しめるみどりが整備されています。
- 本地域には61園の公園があり、このうち1,000㎡未満の公園は33園（54.1%）、1,000以上2,500㎡未満の公園は14園（23.0%）、2,500㎡以上の公園は14園（23.0%）となっています。区民一人あたり公園面積は中央地域に次いで少ない状況です。
- 本地域のみどりの目標に対する現状は以下のとおりです。

指 標	現状値
地域のみどり率	30.2%
区民一人あたりの公園面積（陸域）	2.4m ²
身近な公園の充足率	90.6%

※ みどり率は平成30(2018)年の数値を使用



凡例					
	樹林		農用地(樹林)		水面・河川・水路(草地)
	原野・草地		農用地(草地)		公園・緑地(水面)
	公園・緑地(樹林)		農用地(緑被地以外)		公園・緑地(緑被地・水面以外)
	公園・緑地(原野・草地)		水面・河川・水路(樹林)		水面・河川・水路(緑被地以外)

みどりの状況（葛西地域（北部））

(2) これまでの取組

年	主な取組
昭和 6(1931)年	中川放水路(中川) 開通
昭和 25(1950)年	行船公園開園
昭和 49(1974)年	古川親水公園完成
昭和 58(1983)年	都営新宿線船堀駅開業
平成 元(1989)年	行船公園に平成庭園・源心庵落成 葛西親水四季の道完成
平成 4(1992)年	新川の護岸工事・耐震工事に着手
平成 8(1996)年	一之江境川親水公園完成
平成 14(2002)年	宇喜田公園開園
平成 18(2006)年	一之江境川親水公園沿線景観地区指定
平成 23(2011)年	古川親水公園沿線景観地区指定
平成 25(2013)年	新川の護岸の耐震化・遊歩道整備完了、新川さくら館開館
平成 27(2015)年	新川千本桜完成

(3) 魅力と課題

① 魅力

【江戸情緒ある河川空間】

- 新川沿川や親水公園などは、江戸情緒あふれる空間やみどりにより四季を感じることができ空間が整備されており、地域らしい景観が形成されています。また、古川親水公園沿川や寺社が集積する東葛西地区は、地域の魅力である歴史資源が残っており、古川親水公園沿線を景観地区に指定し、親水公園だけでなく、周辺と一体となった景観形成を促進しています。
- 町会・自治会が中心となって、古川親水公園の清掃活動などが実施されています。

【水とみどりに親しめる空間】

- 本地域は、荒川・中川及び旧江戸川の大河川に囲まれ、まちなかを流れる新川は水とみどりのネットワークを形成しています。各河川沿いは護岸整備などが進み、散策やサイクリングなどが楽しめる、豊かな親水空間が形成されています。
- 地域住民や地域団体の交流拠点となる、新川さくら館が整備され、イベントなどで賑わいが生まれ、地域コミュニティの育成などにも繋がっています。

【多様な機能を持つ宇喜田公園・行船公園】

- 宇喜田公園には、スポーツ・レクリエーションを楽しむことができる大規模な多目的広場や遊具広場があります。
- 行船公園には、自然動物園や日本庭園、水生池、釣り池などがあり、多世代が楽しめる大規模公園となっています。また、約 600 m²の水生池にはヨシやスイレンといった水生植物が生育し、アズマヒキガエルやギンヤンマなどのトンボ類が生息しており、カワセミの飛来も確認されています。また、公園内では在来種であるニホンミツバチの研究がされています。
- 本区は、戦後にかけて全国有数の金魚生産地となり、現在では養殖業者が減少したものの、その品質は日本のトップクラスを誇り、金魚のふるさと江戸川区と呼ばれ、行船公園では

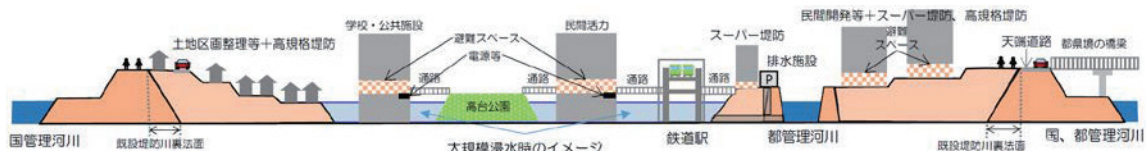
毎年「金魚まつり」が開催されるなど、金魚との触れ合いや歴史を伝える機会を提供しています。

【船堀駅前周辺地区のまちづくり】

- 船堀駅周辺地区では、令和 12(2030)年度、区役所本庁舎移転が予定されています。船堀駅前周辺地区は、本庁舎移転に合わせ、防災性が高く、みどりと賑わいあふれるまちづくりを進めており、本区や地域の新たな拠点として整備されます。
- 令和 5 (2023)年 3 月には船堀駅前地区を対象に「船堀駅前地区高台まちづくり基本方針」を策定しており、大規模水害から住民の命を守るとともに、新たな時代を見据えた区を中心にふさわしい持続可能な拠点を形成し、まちの価値向上を図ることができる「高台まちづくり」を目指します。



新庁舎外観イメージ



高台まちづくりのイメージ

出典：災害に強い首都「東京」形成ビジョン【概要版】（令和 2 年12月）

② 課題

【歴史資源の活用】

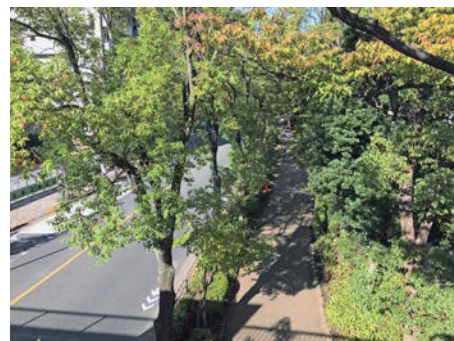
- 東葛西付近は、寺社が集積する特色ある景観を活かしながら、みどりやオープンスペースが適切に整備された住環境の改善を誘導していくことが求められます。

【多様な水・みどり空間の確保】

- 新川、古川親水公園、一之江境川親水公園、葛西親水四季の道や、船堀グリーンロードなどの整備は進められているものの、生物多様性の小さな拠点がやや少ない状況です。大規模公園だけでなく、小さな生物多様性拠点を整備していくことで、より生物に優しい環境にしていくことが必要です。



古川親水公園



船堀グリーンロード

(4) 地域の将来像と方針

① 将来像

江戸情緒あふれる河川の歴史・文化に新たな拠点が融合するまち

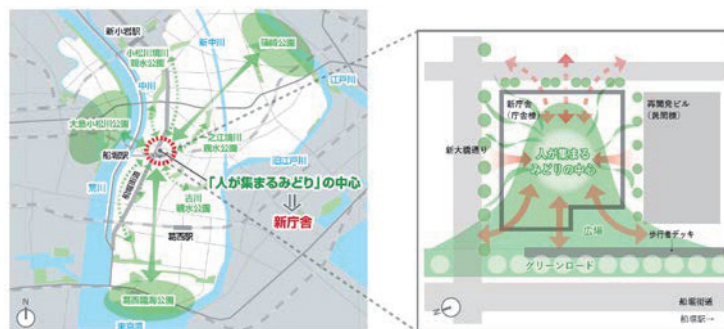
② 方針

◆水とみどり、歴史を活かした環境づくり

- 新川沿いに整備されている江戸情緒あふれる空間や、地域に点在する寺社などの歴史資源を活かし、歴史とみどりが融合した環境づくりを進めていきます。

◆良好な都市基盤を活かした水とみどりのネットワークの拡充

- 船堀駅周辺は、区役所本庁舎移転を契機に「高台まちづくり」を実施し、防災活動拠点を形成するとともに、地域のみどりの拠点および地域の玄関口に相応しい景観を形成します。
- みどり豊かな幹線道路を活用したエコロジカルネットワークの整備を推進します。
- 中央地域～葛西地域(北部)またがって船堀街道沿いに整備されている船堀グリーンロードでは四季折々の樹木によるみどりの景観形成を進めます。



新庁舎周辺のみどりのイメージ

◆水辺空間の利活用促進

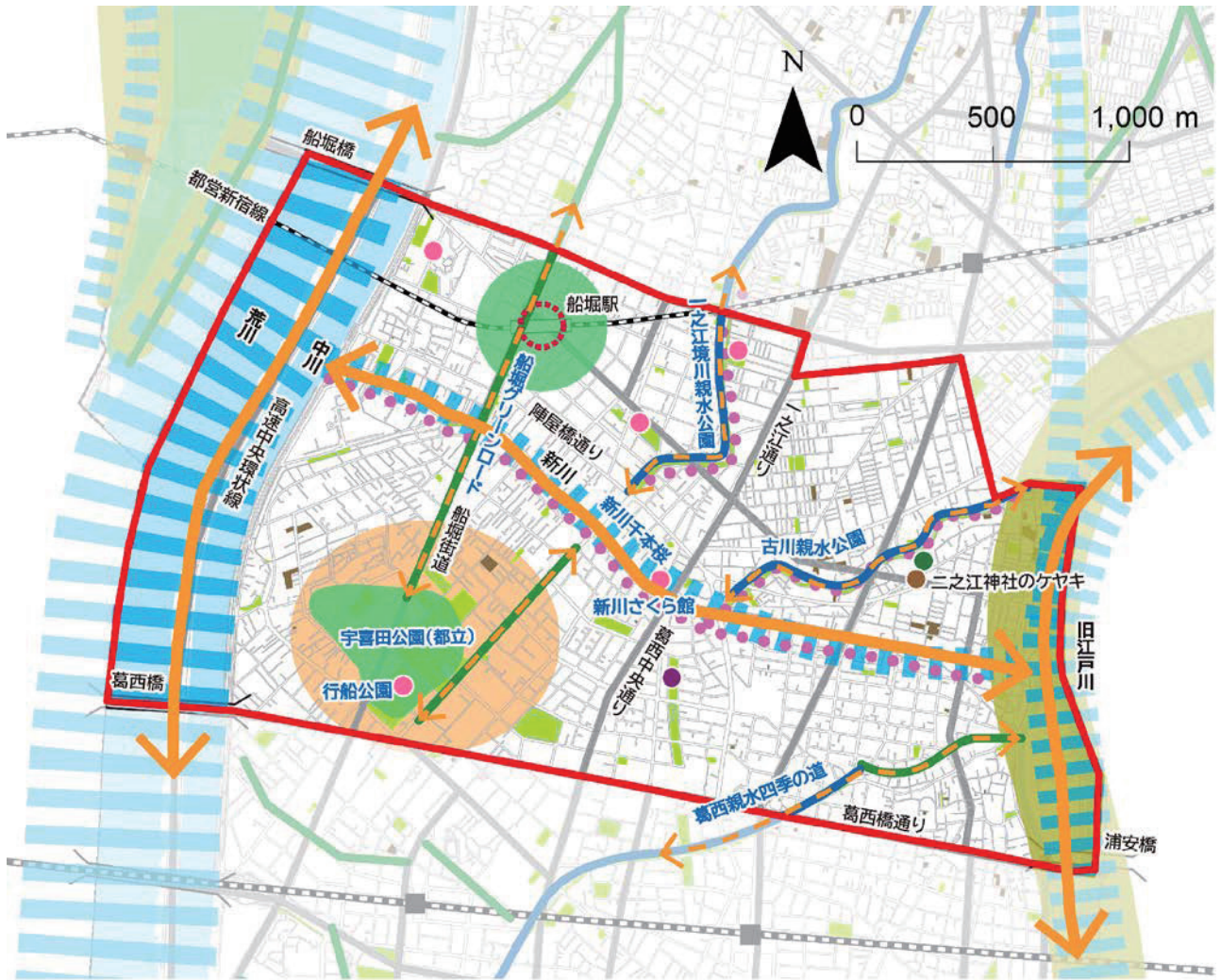
- 新川や親水公園沿いは、桜並木や親水空間が整備されています。これらをより魅力的な空間として多くの人に利用してもらうために、新川さくら館の活用促進、地域団体との連携、イベントの開催などを促進していきます。

◆生物多様性拠点の整備

- 宇喜田公園・行船公園をみどりの拠点及び生物多様性拠点と位置づけ、レクリエーションや憩いの場としての機能の拡充、生物の生息環境の拡充を図るとともに、船堀街道などの緑道とも隣接していることから、大規模な生物多様性拠点として周辺のネットワークを意識した整備を促進します。
- 小規模な生物多様性の拠点となる場所がやや少ないことから、生物の生息空間に配慮した公園整備を推進します。

◆公園不足地域の解消、公園機能の充実

- 地域の東部には、公園が不足しているエリアが多くなっています。既存の公園機能の充実を図るとともに、まちづくりと合わせた新規公園の整備を進めていきます。
- 集積する寺社などの歴史資源を活かし、適切に公園やみどりのオープンスペースを確保していきます。



凡例	
葛西地域(北部)	<拠点>
江戸川区行政界	自然交流拠点
公園	みどりの拠点
河川	生物多様性拠点
農地	地域の顔となる拠点
幹線道路等	景観重要樹木
鉄道	天然記念物(樹木)
	サクラの名所(広場)
	その他の花の名所
	<軸>
	水とみどりの軸
	<ネットワーク>
	水とみどりの生活軸
	主な緑道など
	エコロジカルネットワーク
	サクラの名所(並木)

みどりと生物多様性の方針図(葛西地域(北部))